

平成 23 年度 第三回地域福祉活動計画策定・推進評価委員会 会議録

日 時：平成 24 年 3 月 1 日（木）18：30～20：30

会 場：練馬区役所本庁舎 19 階 1902 会議室

森本委員長 これより第 3 回地域福祉活動計画策定・推進評価委員会を始める。本日は後半に 3 グループに分かれてのグループワークを予定している。

1. 事務局長挨拶

本日はお忙しい中また、昨日の雪で足元の良くない中を第 3 回地域福祉活動計画策定・推進評価委員会にご出席いただき厚く御礼申し上げます。次期策定・推進評価委員会委員の委嘱状をお渡しさせていただきました。今期の任期が 3 月で終了するが今年度から小地域福祉活動と人材育成に取り組んでいるところであるので引き続きお受けいただいて次期計画へとつなげたい。本日は重点事業の取り組みに関して年度のまとめのご意見をいただきたい。宜しく願う。

2. 配付資料確認

3. 第 3 次地域福祉活動計画 実施事業の進捗状況…資料をもとに説明

東京都社会福祉協議会 吉野氏より

小地域モデル事業の連絡会を行った。調布市と練馬区から報告があり、神戸大学大学院 藤井博志教授から次のような意見があがった。

- ・地区社協の拠点がなく状況での一からの取り組みの中で、講座を開催したことは素晴らしい。
- ・これまでの VC の拠点を使うことは大切。ノウハウ、ネットワークは財産なので活用していくことが大事。
- ・包括の支所にコーディネーターを配置したとのことであるが、サービスや施策は行政区での展開であるが、住民は小学校区が拠点になる。地域を細かくして見ることは大切。
- ・すぐに成果等は見えない。見通しをもって今に取り組んでほしい。

4. 重点的な取り組み報告

- ①小地域福祉活動について…資料をもとに報告
- ②人材育成について…資料をもとに報告

5. グループワーク（19時10分～20時10分まで）

各グループの代表委員が発表

Aグループ…1年目としてはよくやっていると思う。光が丘などは、小学校区域よりもっと小さいエリアで取り組んでいく必要があると感じる。活動計画や小地域の取り組みも社協中心に考えるのではなく、まちや住民がどうするかという見方にした方が良い。また社協の活動をもっと知ってもらうためにも認知度を高めることが必要である。小中学校の保護者対象の活動や企画を考えるのもよいのではないか。

Bグループ…1年の活動で課題が見えてきたところだと思う。評価を意識しすぎることで窮屈になってしまうのではないか。課題を出すことが評価ではないか。ゴールを決めてそれに向かっていくことが大切ではないか。

Cグループ…オブザーバーの職員のことを聞いた。様々な取り組みが行われていることを知り、各部署それぞれ何らかの形で地域とつながってきていると感じる。共有良し合って評価しあっていくことが大事。

6. まとめ【森本委員長・明星副委員長】

・副委員長…

小地域福祉活動ありきになってしまっている。何かをやらなくてはと思いつぎている。地域の人はいろいろ言ってくれている。長いスパンで見る必要があり、それを柔軟な姿勢でゆったりと楽しんで地域の人たちの声をキャッチして欲しい。

・委員長…

「資料2」はよいと思った。モデル地区だけではなくいろいろな部署が地域でのつながりを模索し意識している。職員に小地域福祉活動の意識が根付いてきたと言える。仕事をしている場は地域にあり、それとどう関わっていくかということである。東社協からの報告を聞いていて気になったことであるが「資料3」の目標・到達点は手段であると思った。小地域福祉活動が社協の事業ではないはず。評価のために評価をするのではなく、評価の仕方が作れないと話し合うことで内容が深まってきている。目標は地域で困っている人たちが救われることであることにあるように思った。活動している人が、地域福祉コーディネーターがいて良かった、相談がしやすくなったということが評価になる。

Aグループでは、社協中心の地域分けではなく住民目線の生活地域での地区分けができるという意見が出たが、その通りだと思った。

Bグループでは、小地域福祉活動に取り組む始めて1年では評価ができない、課題が見えただけでも良いのではないかという意見が出た。評価の為の評価でなく、評価でない課題が出てきたこと自体が大事。そのことを評価する。

他の社協の活動計画では計画の推進に住民サイドの推進委員がいて、計画の取り組みにあたって社協と住民をつなぐ人がいることもある。練馬の計画においては、住民の側にいて困っている人のニーズをコーディネーターにつなぐ役割を担う住民を明示していない。ボランティアグループや活動者はいるが、こうしたつなぐ人を組織立てていくことがこれから必要となるのではないかと思った。

Cグループでは、各部署の取り組みについて話があったが、社協の仕事はどの仕事も住民につながっている。

例えばキャラクターなども活用したり、いろいろなことをして広めていけるとよい。今、熊本県のキャラクター「クマモン」が赤い羽根をつけているピンバッチをつけている。寄付を含めて500円で売っていたが、結果として1千万の寄付を集めることが出来た。ネリーの方が断然可愛いと思う。このように、福祉的な意味を持ったキャラクターグッズは効果的である。

震災の関係でいえば、今陸前高田は櫛の歯が向けるように住民が出ていっている。このことは30年後の練馬の団地の姿と重なるのかもしれない。

7. 次回の日程について

日時：平成24年6月19日（火）18時30分から

場所：練馬区役所本庁舎19階 1903会議室